



にほんご人 お〜い!

国際交流基金ベトナム日本文化交流センター

ニューズレター2017年1月号 (第四号)

- ❖ 日本語力アップ
- ❖ シンチャオ先生
 - ◆日本語教師にインタビュー
バリア・ブンタウ大学(バリア・ブンタウ) Trương Thị Loan 先生
 - ◆生徒にインタビュー
バリア・ブンタウ大学(バリア・ブンタウ) Lê Nguyễn Minh Hoàng さん
- ❖ 日本語でお仕事
 - ◆働く人ーベトナム人への質問
日本航空 ベトナム支店 総務グループ スーパーバイザー(ハノイ)
Đỗ Thị Minh Trang 様
 - ◆一緒に働く人ー日本人への質問
日本航空 ベトナム支店 副支店長(ハノイ) 澤田 敬文様
- ❖ 笑顔の日本語クラス

いつでもどこでも日本語を！
—日本語eラーニングサイト「みなと」—

国際交流基金
ベトナム日本文化交流センター
日本語専門家 古閑紘子

近年、ベトナムでは日本語が勉強できる学校や機関が増え、日本語を勉強している人、日本語を使って仕事をしている人の数も増えてきていますね。しかし、皆さん自身や皆さんの周りの方で、以下のような状況にある方々もいるのではないのでしょうか。

- ★日本語クラスに行く時間がない
- ★近くに日本語が勉強できる場所がない
- ★クラス以外でも楽しく自習したい
- ★自分のペースで勉強を進めたい



今回は、そんな皆さんにオススメの情報をご紹介します！



—「みなと」って何？—

「みなと」は JF が開発した日本語 e ラーニングポータルサイトで、オンラインで日本語を学んだり、同じコースで学んでいる世界中の日本語学習者と出会うことができる場です。現在開講しているコースは入門レベルの日本語の自習コースと文字(ひらがな・カタカナ)の自習コースですが、これからコースのレベルや種類も増えていく予定です。

<https://minato-jf.jp/>

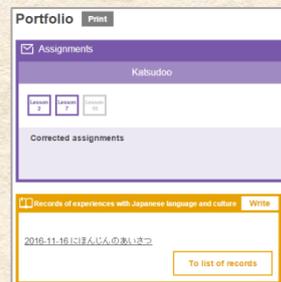
—「みなと」にはどんな日本語のコースがあるの？—

「みなと」には現在、JF が開発した日本語コースブック『まるごと—日本のことばと文化—』(入門)をオンラインで学べるコースが設けられています。日本語でのコミュニケーション力向上に焦点を当てた「かつどう」のコースと、読む・聞く・話す・書く力を総合的に向上させることを目指す「かつどう&りかい」のコースがあるため、目的や目標に合わせてコースを選ぶことができます。



—「まるごと日本語オンラインコース」のいいところ—

語彙や文法を効果的に学べる問題だけではなく、ビデオを相手にした会話練習もあるので、より実践的に日本語を学ぶことができます。また、作文の宿題やテストもあるので、モチベーションを保ちながら学習を進めることもできるでしょう。



さらに、学習進捗のページでは、学習履歴や宿題提出率等をまとめて確認でき、ポートフォリオでは自分の学習を評価したり、提出物を閲覧したりしながら、効果的に学習を振り返ることができます。

—「みなと」で世界中の「ほんご人」つながる—

「みなと」に登録すると、世界中の「みなと」を利用している「ほんご人」と交流できる場(コミュニティー)を持つことができます。みなさんも同じ趣味や興味を持った世界中の「ほんご人」と日本語で交流・情報交換してみませんか？



スマホやタブレットにも
対応◎



現在開講しているコースの解説言語は英語のみですが、これからコースの種類やレベル、解説言語も順次増えていく予定ですので、ぜひ定期的にチェックしてみてください！

シンチャオ先生

この「シンチャオ先生」と次の「生徒にインタビュー」のコーナーでは、日本語を教えるベトナム人教師とその生徒であるベトナム人学習者の双方にお話を伺い、同じ学びの場において立場の異なる視点から感じたことや経験について記事を掲載しています。

今号のインタビューに答えてくださったのは、バリア・ブンタウ大学 Truong Thị Loan 先生です。

◆日本語を学び始めたのはいつからで、これまでどのぐらい日本語の先生をしていますか。

ハノイ国家大学外国語大学で日本語を学び始めたのは1993年です。卒業してからこれまで20年間日本語の仕事に携わってきました。バリア・ブンタウ大学には、勤め始めて丸10年になります。



◆どうして日本語の先生になろうと思いましたか。

教師になるのが子どものころからの夢でした。国家大学外国語大学に入り、語学の専攻を何にするか決める時に、それまでほとんど縁のなかった日本語を選んだのは、将来必ず日本語がベトナム人にとって、必要とされる時代が来ると思ったからです。実は、その年に初めて国家大学外国語大学に日本語学科が出来たのです。日本語のことについて知っている人がまだ少なく、不安もありましたが、卒業してから日本との貿易や文化交流の架け橋になれるのではないかと期待もありました。やっぱり、卒業後の同級生は今でもハノイをはじめ、ベトナム全土で日本語教育の発展のために活躍しています。今、私はバリア・ブンタウ大学で、日本語教師としての仕事にとっても充実感を味わっています。

◆日本語の先生をしていて、嬉しいことは何ですか。

何と言っても毎日学生と触れ合える事が私の喜びであり、自分の指導した学生が立派に育っていく姿を見られることこそが全てです。熱心な学生が、苦勞しながら自分で日本語を作り上げていく姿を見ると感動します。

◆日本語の先生をしていて、大変なことは何ですか。

初めて日本語を学習する学生に、日本語の文字を教えることが、一番大変だと思います。学習者がどうしたら簡単に文字を覚えることができるか、いつも悩んでいます。文字の数が多いため、学生が途中で投げ出したり、授業に飽きたりすることがないように気を使い、様々な工夫を試みています。

◆日本語を教えている生徒はどうですか。

私が担当している学生はおおむね学習に真面目に取り組んでいます。熱心な学生は発言も質問も多くいつも楽しみです。

只、まだ自分の学習に自信の持てない学生も何人かおり、このような学生は授業中黙っていることが多く、とても残念です。教室ですから、失敗することや間違っただけで恥ずかしい思いをすることは当然なのですが、それを割り切れず恐怖心とか羞恥心から逃れられない学生がまだまだいるようです。

◆日本語を勉強している生徒に望むことは何ですか。

学習者にはさまざまなニーズがあり、学習に取り組む方法もそれぞれです。目標も大小さまざまです。今のバリア・ブンタウ大学の環境はこれまでにないくらい、しっかりと整備されていますので、自分の日本語の勉強のためにそれらを十分に活用して欲しいのです。そして、自分の目標に出来るだけ早く到達できるよう努力し、卒業後の自分自身の人生にうまく生かせるように取り組んで欲しいものです。

◆最後に、どんな先生になりたいですか。

バリア・ブンタウ省は、工業、港湾事業、観光などの産業がこれから大きく発展していく要素がたくさん詰まっています。将来多くの外国企業の進出が期待されていますが、その中には日系企業も含まれます。私は日本語を教えることだけにとどまらず、日本の経営文化などについてさらに教養を深め、バリア・ブンタウ大学と日本企業とのパイプ役としても、関わっていかねばならないと思います。

生徒にインタビュー

この「生徒にインタビュー」と前の「シンチャオ先生」のコーナーでは、日本語を教えるベトナム人教師とその生徒であるベトナム人学習者の双方にお話を伺い、同じ学びの場において、立場の異なる視点から感じたことや経験について記事を掲載しています。

今号のインタビューに答えてくださったのは、バリア・ブンタウ大学で日本語を勉強している Lê Nguyễn Minh Hoàng さんです。



◆ いつから日本語を勉強していますか。

日本語を勉強する前に、一年間ぐらい情報技術を学んだことがあります。でも、この学部に興味がないと感じたので、インターネットで、日本語学習の評判が良い、バリア・ブンタウ大学に入学願書を出す事に決めました。2014年10月15日に入学し、日本語を学び始めたのです。

◆ どうして日本語を勉強しようと思いましたか。

日本人と日本の文化を愛するからこそ、日本人が使う言語を愛します。日本語は世界でも難しい言語の一つといわれてきました。日本語を勉強するのは安易じゃありません。でも、私にとっては、難しければ難しいほど学習意欲は燃え、わからないことに対して一生懸命に調べたくくなります。それに、ベトナムでの日本語に関わる仕事が増えていますので、日本語が分かる事は将来仕事に就く上で、十分役に立つと思います。



◆ Loan 先生はどんな先生ですか。

先生は日本語に対する深い知識ばかりでなく、日本の習慣や文化や日本人の性格などをよく理解されていますし、教え方も分かりやすいです。Loan 先生はベトナムと日本の文化交流と勉強のために、日本の大学と交換留学の機会も探してくださいました。先生は、生徒の生活と勉強を情熱をもって支えて下さっています。

◆ 日本語を勉強していて、難しいことは何ですか。

私は日本語を2年間勉強してきました。私にとって一番難しいのは、日本人の話すスピードがかなり速くて、うまく聞き取れないことです。最初、このスピードに慣れませんでした。学習を積み重ねるうちに段々慣れてきました。聴解の勉強を多くやることでこの問題は改善されると思います。

◆ 日本語を勉強していて、楽しいことは何ですか。

日本語は本当に面白いです。文法と漢字を勉強するのが好きです。漢字は調べれば調べるほど面白いです。

◆ 日本や日本語の好きなところはどこですか。

日本は人々が安全に暮らす平和な国だと思います。そして、私にとって、日本は自分の夢を実現するための国です。日本文化をもっと学びたいと思います。日本人の丁寧に仕事をする態度が気に入っています。特に、天災が起こったときの日本人の強い不屈な意志はとても感心します。

◆ これから日本語とどう関わっていきたいですか。

大学で日本語を学んでいることを社会でうまく運用したいと思います。日本に関わる社会的なボランティア活動に参加したいです。そして、日本の文化とベトナムの文化に関わる仕事をしたいです。日本とベトナムの関係がますますよくなると思います。

日本語でお仕事

ベトナム人の方への質問

「日本語でお仕事」のコーナーでは、日系企業で働くベトナム人の視点から仕事について感じたことや経験についてお話を伺っています。また、同一の職場で働く日本人にもお話を伺い、立場の異なる視点から仕事について感じたことや経験について記事にし、掲載しています。今号のインタビューに答えてくださったベトナム人の方は、日本航空ベトナム支店 総務グループ スーパーバイザー Đổ Thị Minh Trang 様です。

◆いつから日本語を勉強していますか(どんなところでどのくらい日本語を勉強しましたか)。

2003年にハノイ大学に入学して、4年間日本語学科で日本語を勉強しました。

◆今の仕事を始めたきっかけは何ですか(どうして今の仕事を選びましたか)。

大学2年生から和食レストランでアルバイトを始め、大学卒業後も1年半ほど続けていました。当時、日本航空に勤めていた友人から社員募集情報を聞き、弊社に応募しました。気がつけばあっという間に日本航空で7年半ほど働いていました。

◆仕事の内容を簡単に教えてください(どんな時、日本語を使って仕事をしますか)。

私は経理・総務の仕事をしています。簡単に申し上げますと、経理業務であれば、費用・収入などの経理処理や計画管理を行い、総務業務では、本社との窓口、ITインフラ関連、社内カイゼン活動の取りまとめなど、支店がスムーズに運営できるようにいろいろな仕事をしています。弊社は日系企業ですので、社内で上司・同僚との会話、また本社とメールする時にも、日本語をよく使います。

◆どんな時、仕事が大変だと感じますか。

締め切りがある様々なタスクを同時に終えなければならない時に、仕事が大変だと思います。

◆どんな時、仕事を楽しみ感じますか。

タスクが無事に完了する時です。

◆これからどんな人になりたいですか。

豊富な知識を持ち、仕事も遊びも両方楽しめる人間になりたいです。また弊社の発展にもっと貢献したいと思います。

◆日本語を使って仕事をしたい人にアドバイスをお願いします。

弊社の名誉顧問、稲盛和夫のフィロソフィによると、人生や仕事の結果は「考え方」×「熱意」×「能力」の3つの要素で決まります。自分の経験で考えると、その通りだと思います。大学の時には、私は結構内気なはずかしがり屋で、日本語で会話をする機会も少なかったので、入社してから、自身の日本語がまだまだ下手でした。日本語能力が低くても、人間として正しい考え方と仕事に熱意を持っているので、少しずつ自分が成長するのを見ることができました。

将来、日本企業に就職を志望しているみなさん、ぜひ参考にしてください！



「日本語でお仕事」のコーナーでは、日系企業で働くベトナム人の視点から仕事について記事にすると共に、同一の職場で働く日本人にもお話を伺い、立場の異なる視点から仕事について感じたことや経験について記事にし、掲載しています。

今号のインタビューに答えてくださった日本人の方は、
日本航空ベトナム支店 副支店長 澤田 敬文（さわだ たかふみ）様です。

◆御社（貴社）の会社概要を教えてください。

当社は 1994 年 11 月に関西=ホーチミンシティ線就航と共に支店開設を行い、2002 年 6 月の成田=ハノイ線就航時にハノイ事業所を開設、現在はハノイ、ホーチミンシティの 2 拠点体制でベトナム支店（従業員数：58 名）を運営しています。日越間を最新鋭機材である B787 で、ハノイ=成田（午前 0 時 25 分発）、ホーチミンシティ=羽田（23 時 50 分発）、ホーチミンシティ=成田（午前 8 時発）と、毎日 3 便運航しています。今年でベトナム就航 22 年を迎え、日越間を運航する日系航空会社として最も長い歴史を持っています。従業員一同、皆様のご利用をお待ちしております。

◆日本語が話せるベトナム人の方にはどんな仕事を担ってもらっていますか。

フロントラインでは空港での接客業務や法人営業、また間接部門では財務を中心とした総務業務を担ってもらっています。いずれも社員の業務適性に加えて、日本語の能力を活かせる人員配置を心掛けており、本社との窓口、調整業務等も担当してもらいながら人財育成を図っています。



◆ベトナム人と一緒に働くことはどうですか。

一般的に言われる通り、大変勤勉であり、日常業務であまりストレスを感じることなく、一緒に仕事ができています。特に職場のスタッフ同士の仲が良い点には、私自身助かっています。誰かが休んでも別のスタッフが適宜業務をカバーしたり、更には天候や航空機整備等の理由から、お客様にお約束した時間通りに運航できないようなイレギュラーが発生しても、チームワークを発揮して一生懸命最後まで粘り強く、問題解決に対応する姿勢も見受けられます。大家族制のベトナムでは、相互に助け合って生きてきたからなのか、仕事の端々に助け合う姿勢を垣間見ることができます。

◆ベトナム人従業員に求めることは何ですか。

日本の様に 4-5 年単位でいくつもの部署間を異動する職場ではないことから、ある業務領域に対するエキスパートを育成しやすい反面、一人一人の視野、視座が広がりにくいデメリットもあります。したがって、業務指示に対して忠実に実行するだけでなく、常に情報のアンテナを立て、普段から自分自身でものごとを考え、自ら課題を見つけ、自分から手を挙げて提案し、周囲の仲間を巻き込んで仕事を進めていくことだと思います。常に危機意識を持った「自立」、失敗を恐れず新しいことに臆することなく取り組む「挑戦」、世の中の変化に素早く対応する「スピード」をキーワードに、将来の組織幹部を育成しています。

◆ベトナム人従業員を採用するとき、どんなところを見ていますか。

当社は日系の航空会社であることから、日本や日本語に対する関心度、航空会社の仕事に対する思いや熱意をまずは確認しています。「好きこそものの上手なれ」ということわざがありますが、仕事を好きになる方の多くは、地味な努力を重ねることを惜まず、一生懸命仕事に打ち込まれています。その上で組織の中でわれわれの仲間の一人として、一緒に働きたいと思うような人格や人間性を見つけられるかどうかをポイントにしています。

◆その他、読者に伝えたいベトナム人スタッフとのエピソードなど何かあれば、お願いします。

日本語能力は、日系企業で活躍される上で大きな武器となりますが、語学力だけでなく日本の文化、日本人のものの考え方などを理解されることも大変重要です。ほとんどの仕事は一人ではできません。仲間と一緒にチームワークを発揮して仕事をしていく為にも、クロスカルチャーや相互理解は欠かせないものです。

一方で社員旅行等の際には、社員の家族も参加されますので、一緒に飲みながらいろいろお話しができ、私にとってはベトナム文化、風習を学べる機会になります。普段職場では見られない社員の横顔を垣間見たりして楽しいものです。社員の小さな子供たちとも遊んでいるうちに気がつけば、背中や足に子供たちが乗るなど、保父さん状態になっていることもあります。また昼から飲み始め、夕食でも飲んで、その後カラオケ会場で飲んで、数時間寝てから深夜 2 時に再集合して屋外で飲んでと、大変タフなイベントだったりしますが、お互いをより深く知りあう上で大事な行事ととらえています。

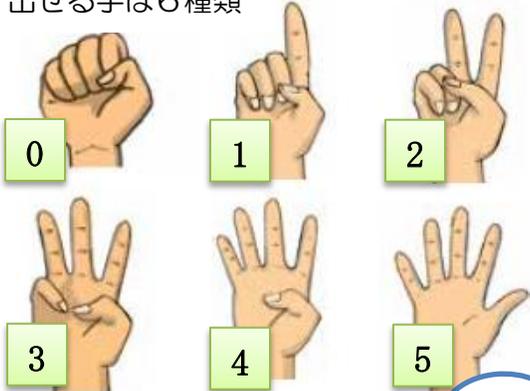
2016年9月から、ハノイとホーチミンの小学校5校で3年生が日本語学習を始めました。

小学生向けの授業では特に、生徒が生き生きと楽しく学べる活動が求められます。受動的に先生の話の聞いているだけより、能動的に活動できたほうが楽しいし、だからこそ記憶にも残りますよね。

今日は、楽しみながら勉強にもなる、そんな活動例をひとつご紹介します。

0-10の数を学習する時に「フラッシュジャンケン」

出せる手は6種類



掛け声は「じゃんけん
ホイ！」の代わりに
「1, 2, 3！」



出た手の合計を
早く答えた人が
勝ち！



ご！



足し算だけでなく、引き算や掛け算にもできますよね。
算数との教科横断型の学習になっています。



日本人の皆さんもベトナム語でやってみてください。盛り上がりますよ。

今後、このような「生徒が生き生きと楽しく学べる活動」を動画でもご紹介していこうと思います。お楽しみに♪